

ちよつといい話

～ 久遠に輝く ～

昭和15年春、七草法要の御説経の立札を見て1人の女性が立ち寄られました。その方は、後日分かったのですが、今佛と称されておられる、山形県在住の渋江もと様だったのです。嶺雲住職の法話が終わり参詣の人々も帰り、御堂には唯1人渋江様が静かに端座してみえました。祖母が渋江様に声を掛けお話を伺うに、現実には起きた不思議な事、極楽浄土の阿弥陀様、観音様等のありがたい話をされたのです。その時、祖母はまさしく善光寺如来様がこのお方を呼んで下されたのだと思い、娘が病で床につき一年以上も良くならずに死を待つ無念さをお話したのです。すると、渋江様は柏手を軽くポンポンと二回打って頭を少し下げ佛様と話をして下さいました。そして、次の様に話されたのです。「西北の角をいじられましたね。大將軍様（神）がお怒りです。7人の命を奪うと言ってみえます」と聞いて、祖母はびっくりしました。町内の不心得者が勝手に言われた場所をいじっていたのでした。知らずに恐ろしい事に遭遇していました。渋江様は「3日間私が謝ってあげますから心配しないで下さい」と言いお帰りになられたのです。なんと、約束の3日目に不思議にも病が完治してしまったのです。真に深き佛縁の有り難き事かな。私たちは、神佛に守られていることを忘れてはならないのです。その娘が、現在80歳にて元気に住職の妻を勤めています。渋江様は現世にあって僧上菩薩の位を頂かれておられ、観経によれば、

じょうぼんじょうしょう

上品上生の位の所です。渋江様の生活指針が書かれた本の中に

「千々に砕けし吾が心に悟り来たれば一道の光明現れ、いかなる

なんぎかんなん

難儀艱難も、此の世の務めと忍ばずば、如来様の御前に行きても恥

そし

ずかしと、心励まし人の譏りも世の荒波も、皆さきの世の、犯せる罪の償いぞと、いとはず務め果たさずば、未来の親様の御傍に行かれまじと思ひ、唯々懐かしく此の世の親も未来の親様も、隔てる心なき吾を遠く離れて必ずみそなはずらん。やがて逢ふ日を楽しみに、日々を過ごすこそ楽しけれ」と示されております。平成14年6月28日、現住職夫妻が山形市の自宅に伺い、深謝すると共にここまで復興出来た御礼を申し述べる事が出来ました。

善入院油掛地藏尊